

オンラインクイズ大会 企画ガイドライン

世界中の日本語補習校に通う小学生がクイズ形式で自分の町を紹介しながら、「自分の町を伝える/他の町を学ぶ」活動を行います。

【目標】

- ①日本語を実践的に使う機会作り（伝える相手がいることで学習意欲や意識に変化が生まれる）
- ②相手が理解できるように言葉を選んだり、説明を検討したりする学びの機会作り
- ②日本語を学んでいる同学年の子どもが世界中にいることを知るきっかけ作り

【関連単元】

クイズおよび解説を作成することで学習指導要綱の【書くこと】の指導事項を実施できます。

下記、光村図書の国語教科書の単元の実践活動の場としてもご活用いただけます。

3年「わたしの町のよいところ」「本で知ったことをクイズにしよう」

4年「新聞を作ろう/調査の仕方」「工芸品のみりよくを伝えよう」

5年「新聞を読もう」「文章に説得力を持たせるには」

6年「文章を推敲しよう」「話し言葉と書き言葉」「インターネットでニュースを読もう」「日本文化を発信しよう」

【クイズ大会の概要】

すること:小学生が考えたクイズを出し合う。

対象者:小学3年から6年生

時間:1時間程度

場所:ZOOMなどを使ったオンライン

用意するもの:パワーポイントのスライド(各校の紹介とクイズのスライド)

【各学校担当者がやること】

<開催2か月前>

開催校の先生同士、メールであいさつ。クイズの日時やテーマ、クイズ数などを決める。

<開催2週間前までに>

・「自分たちの町を紹介する」三択クイズを生徒が作成

クイズのフォーマット

<https://docs.google.com/presentation/d/1SgM-F82UwpTGbxrY0Jwn4DsQcLTypiZZ/edit?usp=sharing&oid=104260644984745681797&rtpof=true&sd=true>

- ・学校紹介スライドを教員が作成。

<開催2週間前頃>

- ・開催校の先生で打合せをし、当日の進行やルールなどを確認。
- ・クイズを発表する生徒を決めて、必要に応じて発表の練習をする。
- ・当日のZOOMリンクを参加者に送る。

【先生同士で確認しあうべきこと】

- ・個人情報の扱いについて(生徒が本名を書くか否か、クイズや当日の様子の写真の公開に関して)
- ・クイズ大会の参加資格について(保護者や見学者について)
- ・保護者の同意書の必要性に関して
- ・クイズ大会の記録に関して(集合写真や録画をするのかどうか。撮影した場合、写真や動画の扱いはどうすべきか)

【当日の進行】

担当:全体進行・司会者1人

スライド管理 1人

自分たちの学校の紹介やクイズの出題の進行 各学校担当者

<導入:全体司会者>

みんなで挨拶

参加にあたってのお願い(画面ON、音はMUTEにすることなど)

クイズのルールの説明

<各校からクイズ出題:各学校担当者が生徒が発表できるように進行をリードする>

各校の紹介

クイズ出題

<終わりに:全体司会者>

クイズの正解数をさく

交流タイム(例:「冬休みの予定は？」などの質問を投げかけ、話したい子が話す)

集合写真

アンケート回答のお願い

みんなでご挨拶

【クイズの回答の仕方のアイデア】(誰が何を正解と思っているかがわかる。会場が盛り上がる)

・選択肢1は赤、選択肢2は青、選択肢3は緑といったように色違いの紙をもたせて、自分が正解と思う番号の色札を画面に見せる。

・Kahoot!などのクイズ回答アプリを導入(参加者みんなにアプリ導入してもらう手間がある)

・正解数を数えられるようにシートを用意

【授業へのクイズ大会の取り入れ方に関して】

限られた授業数の中でクイズ大会をどのように取り入れるのかは懸念の一つかと思います。各学校によって取り入れ方は様々で、下記に一例を紹介します。

①国語の単元学習の一環として、下記単元をまたいで実践。

3年生「私の町のよいところ」「本で知ったことをクイズにしよう」

5年生「文章に説得力を持たせるには」

6年生「文章を推敲しよう」「話し言葉と書き言葉」「インターネットでニュースを読もう」「日本文化を発信しよう」

②総合的学習の時間のプロジェクトとして実施

③学校から募集をし各家庭で任意参加

【クイズ作成に関して】

クイズ作成は難易度の高い学習活動です。実施校の教員からの経験をご紹介します。

「町のまつり、町のユニークな食べ物、わが町の学校などテーマをある程度絞ったほうがクイズを考えやすいかもしれません」

「中学年には、ほかの町にはなさそうなこと、自分のまちの特異的なこと、相手がしたら驚いてもらえそうなことを意識してクイズを作ってもらうことが難しかったです。生徒がテーマを決めましたが、教員が答えを決めました。例えば、生徒が『学校の行事をクイズにしたい』と決めたら、教員が『バジャマデーが答えになる問題をつくってください』と指導しました。」

「当日発表の声小さかったり、早すぎたりして聞き取れない児童もいます。クイズの問題がわかりやすいか、写真やイラストなどで理解しやすい工夫があるか確認が必要です」

「日本語習熟度が低い児童が問題を理解できていない様でした。各家庭であれば保護者の方に、学校で実施する場合はサポートの先生が隣について問題をわかりやすく説明しなおす必要があるかもしれません」

「相手がどのくらい日本語を理解できるかを考えて、言葉や文章を選ぶいい経験になります。クイズをつくったら、校内でまず出し合って、クラスメイトが理解できるかを事前に確認するのもいいかもしれません」

【参考:過去のスライド】

画像は著作権保護のため、削除しております。写真やイラストは生徒の理解を助けるために大切な要素と考えますので、多用することをお勧めいたします。

https://docs.google.com/presentation/d/1KmJsBG0KMw76T5DdXM5LMVzoW_9v5iPS/edit?usp=sharing&ouid=104260644984745681797&rtmpof=true&sd=true